

令和7年度学校評価アンケートの結果について

1 回答状況

対象	人数	回答率(%)	実施方法
生徒	596	93.7	Google フォーム
保護者	565	88.8	さくら連絡網
教員	54	98.2	Google フォーム

2 実施時期 令和7年12月

3 集計結果の概要

(1) 生徒

全体的に評価は高く、前年度と比較して多くの項目でプラス評価（評価AとBの合計）が増加した。特に「9. 授業で自分の考えを発表することがよくありますか」が大幅に増えたことから、現行学習指導要領で掲げている「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた教員の授業改善や取り組みを、生徒も認識していると思われる。その他の項目からも、生徒が学習や進路、学校行事、部活動などに意欲的に取り組み、自分の成長を感じながら充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。学校全体の教育活動が適切に行われ、丁寧な指導や対応の結果と考えられる。

(2) 保護者

多くの項目でプラス評価が80%を超え、前年度と比較してもマイナスからプラスに転じた項目が多く見られた。生徒の評価と合わせて考えると、生徒が成長し、充実した学校生活を送っていることから、本校の教育活動や指導に対して、多くの保護者から一定の理解が得られていると思われる。

(3) 教員

教員の自己評価は、今年度前期と比較してプラス評価が減少した。前年度後期から今年度前期はプラス評価が増加した項目が多かったが、今年度中盤からは予期せぬ様々な事情が発生し、業務に携わる教員の負担が大きくなってしまった。その都度、関係教員と協議しながら教育活動にできるだけ支障がないように進めた結果、生徒や保護者から高い評価を得られたところだが、校務分掌の在り方、業務の内容や進め方など教員の働き方について、これまで以上に見直しを進めていく必要がある。

4 次年度に向けた改善策や取り組み

(1) 各アンケートの結果から、年次や学科により評価に差が見られる項目があった。学校全体として共通の目標を持ち、生徒の個性や事情について情報共有しながら、きめ細かな指導と組織的対応を引き続き推進していく。

(2) 身だしなみなど生活指導に、いくつか意見が寄せられた。個々の生徒の事情に応じた指導や対応を行うとともに、教育基本法などの関連法令や社会通念上求められる態度や礼節、マナーを育成することも学校教育に求められるものであることをご理解いただきたい。その際に、子どもの権利条約やこども基本法を踏まえ、生徒の人権と主体性を尊重して、様々な教育活動や指導を行っていく。また、教員の指導力向上等も図るために計画的に研修も行っていく。

(3) 施設・設備に関しては、生徒の環境への適応力とのバランスを図りながら、健康を最優先に運用している。一方、施設・設備の更新等は進めているが、大規模な施設・設備の更新等については、教育局担当課に対して予算措置をされるよう要望を続けているところである。